

# 7月定例記者会見 会見録

令和5年(2023年)7月11日(火) 11:00~11:40 庁議室

## 質疑応答

### ■SNSアプリ「ピリカ」を活用したごみ拾い活動の推進について

#### 記者A

この取組に関して、市としては何を行ったのでしょうか。ホームページを作ったということなのか、それとも民間企業が行っている仕組みを市が導入したということでしょうか。

#### 市長

「ピリカ」は、世界中で使われている日本発のアプリです。世界中のごみ拾い仲間と繋がってコミュニケーションをとりながら、モチベーションを高めてごみ拾いを楽しく継続できるサービスです。自治体と提携せず個人で使うこともできますが、今回「ピリカ」と連動したつくば市の特設ページをWEB上に開設することによって、市内のどこでどれくらいごみが拾われているかや、どのような方が活動をしているか等が見える化できるようになりました。この見える化は、ボランティア活動や経済活動において非常に重要です。「このように活動している人がいるなら自分もやってみよう」とか、「ごみがあまり拾われていない場所があるから拾いに行こう」といった活動促進に繋がり、積極的にごみ拾いをされている方々のコミュニケーションツールになります。特設ページを見ていただくのが一番イメージが湧きやすいと思います。特設ページでは、ごみを拾った方が内容を登録すると、地図上にごみが拾われた場所や内容が表示されます。そのような見える化の仕組みを用意しました。

#### 記者A

地図上にマッピングされ、クリックすると情報が出てくるイメージでしょうか。

#### 市長

地図上に表示されたマークをクリックすると、例えば「今日でピリカデビューです。仕事帰りに拾いました。たばこの吸い殻がほとんどです。」といった投稿内容を閲覧できます。私の家の近くでは、散歩中にマスクを拾った方がいるようです。このような投稿が各地であり、活動状況が分かります。現在(7/11)の延べ参加人数46人、拾

われたごみの数は1,523と表示がされています。

#### **記者A**

なぜ今、市がこの取組を始めることにしたのですか。

#### **市長**

市ではこれまで、環境美化活動支援事業として、環境美化ボランティアを募集し、清掃の際の支援物品の支給等を行ってきました。そのような中で「活動者間でコミュニケーションを図りたい」、「ごみ拾いイベントがあれば参加したい」というお声をいただいていた。そこで、このようなプラットフォームを用意することにより、環境美化活動に1人でも多くの方が参加するきっかけを増やしたいと思っています。双方向の情報発信をすることで、ごみ拾い仲間同士で「今度ここに集まって活動しよう」と呼びかけ、イベントとして取り組むことが可能になり、ごみ拾いのSNSとしてご利用いただけます。仲間を募ってごみを拾う人を1人でも増やしていくために、プラットフォームを市が用意する価値はあると考え、導入に至りました。

#### **記者B**

市がプラットフォームを設ける今回のような取組は、県内あるいは国内で何番目ですか。

#### **市長**

見える化ページは既に全国21自治体で開設しています。県内では初めてです。

#### **記者B**

この活動によって、不法投棄を無くしていくことまでお考えでしょうか。

#### **市長**

それは非常に重要な視点で、以前「ピリカ」の関係者の方々とも話をしたことがあります。活動の広まりが、不法投棄の抑止力に繋がること等が検証できると良いと思っています。今のところはまだ、この活動を明確に不法投棄対策という位置付けにはしていませんが、繋がっていく可能性はあると思います。

## 記者B

「このようなアプリで私達が監視しているので、不法投棄はしないでくださいね。」  
ということになりますか。

## 市長

どの程度の抑止力になるかは分かりませんが、仮に不法投棄をしようとした際に、ごみを拾っている方が多ければ、すぐに警察への通報ができる等、長い目で見て抑止に繋がって欲しいという思いはあります。

## ■つくばメディアアートフェスティバル2023の開催について

### 記者A

メディアアートをイメージするために、どのような作品が飾られるのか等、具体的に教えてください。

### 市長

メディアアートとは、芸術と科学技術が融合した分野です。デジタルメディア等のテクノロジーを題材とし、VR 技術を使った作品等、様々あります。なかなか言葉で表現するのが難しい世界ですが、つくば市で最も有名なものとしては、落合陽一さんが様々な形で展開されています。

### 文化芸術課

今回メインの出展者として、アーティストの児玉幸子さんをお招きしています。添付したチラシに記載している球体の作品は、磁性流体と呼ばれるものを使用しています。球体の水面に浮かぶ黒い物体が磁性流体で、磁力に反応して動く性質があります。このような磁力や光に反応する作品等、科学的事象に対応した作品が展示される予定です。今年は「サイエンスハッカソン」として、科学者とアーティストが協働して作品を制作し、展示する取組を実施します。児玉幸子さんは磁性流体を利用した作品をよく制作されていますが、今回は「磁場」をキーワードとして、太陽について研究をしているJAXAの研究者の方々と児玉さんが協働し、新たな作品を制作することになりました。

## 記者A

科学的な実証を、アート作品という形にして表現するというのでしょうか。

## 市長

「サイエンスハッカソン」については、研究者とアーティストの協働による制作になります。

## 文化芸術課

今年は、アーティストの児玉さんと、太陽について研究をしている2人の研究者が協働します。

## 市長

例えば以前は、別のイベントですが、麒麟の研究者と照明デザイナーの方が、麒麟の骨格を利用したランプを制作しました。また、面白かったのは、ぜひ後で動画を見ていただきたいのですが、ロボットを入れたぬか漬けに電極を通して定期的にピクピクと反応させ、発酵させていくという作品もありました。無機的な存在であるロボットに有機性を与えるという作品です。アーティストと科学者が協働するケースもありますが、メディアアート自体は、必ずしも科学者と一緒に組んで制作するとは限りません。アーティストが自身で表現したいものを、デジタルツール等を使って表現することもあります。それぞれのアーティストが、様々な形で表現するため、一言では申し上げにくいです。また、インタラクティブが特徴で、作品の前を人が通ると動きが変化したり、鑑賞する方の動きに反応して作品の見せ方が変わったりしますので、ぜひ、会場にお越しいただければと思います。

## 記者A

動画だけでなく、新聞用にスチール写真でも伝わる作品があれば嬉しいです。またご相談させてください。

## ■オンラインタウンミーティングの開催について

### 記者C

中高生タウンミーティングは、これまでも実施されてきましたよね。

実際に若い世代の声を聞いて、具体的な施策として取り入れたり、市政運営の参考に

したりした事例はありますか。

## 市長

非常に多くあります。タウンミーティングの中高生版は元々、タウンミーティングに参加した高校生から「中高生版を実施して欲しい」というお手紙をいただいたのがきっかけです。また、教育大綱を作る際には中高生から、学校でどのような学びをしていて、どういう授業だったら受けたいか、どういう学校だったら行きたいと思うか等、意見を聞きました。それらが、教育大綱に示している「『教え』から『学び』へ」や、「『管理』から『自己決定』へ」に繋がっています。タウンミーティングに限らずメールもいただいております、それらのお声が非常に市政の参考になっています。例えば、昼休みが短く図書室で本が借りられないので、アナログだった貸出しカードを電子化して欲しいという相談をいただき、全校で電子化を取り入れました。また、吾妻中学校科学部の生徒の皆さんからは、「中央公園の噴水を再開すれば、淀んでいる池の水が綺麗になるのでは」とご提案をいただきました。そこで、故障したまま放置されていた噴水を修理して再開したことで、池の水の透明度が上がりました。中高生は子どもというよりも1人の市民だと思っています。中高生とのタウンミーティングを非常に楽しみにしています。

## ■つくばちびっ子博士2023の開催について

### 記者C

指定見学施設は39機関とのことですが、今年から新たに加わった施設はありますか。

### 教育局

今年から新たに、つくば市の出土文化財管理センターが加わりました。

### 記者C

今回初めて1人1台の端末を使って、「つくばちびっ子博士デジタルチャレンジ」を導入するということですが、具体的にどのようなことができるのでしょうか。これまでと何が異なるのか教えてください。

### 市長

これまでは紙のパスポートを使用してきました。この従来どおりの実施手法に加え、

1人1台の「学習用端末」を活用した「デジタルチャレンジ」も実施します。例えば、Webシステム上でクイズに回答して正解だった場合、即時に解説をもらえますし、間違った場合はヒントに繋げることができます。これまではパスポートにスタンプだけ押して、すぐに次の施設に行くというケースもありました。各機関でクイズに答える等の工夫をしていますが、それもなかなか大変だと思いますので、それをデジタル化することによって、単にスタンプラリーをするだけではなく、実体験を大切に学ぶに繋げていけると考えています。紙のパスポートは学校で配布していただいているのですが、子供たちが具体的にどのような学びをしたのかが学校側は分からない状況です。デジタル化によって夏休みに生徒が具体的にどのような学びをしたかが把握できれば、将来的には先生が意識をして生徒へ学びに関する問いかけをすることができる等、夏休み明けの学びにも活かしていけるのではという期待をしています。

## 記者C

コロナの影響もあったと思いますが、昨年度の実績を教えてください。

## 教育局

昨年度（2022年度）は紙のパスポートで実施しましたが、提出数は2,112件で、その前の年度（2021年度）は2,335件でした。今回はさらに、「デジタルチャレンジ」を加えましたので、参加率の上昇が期待できると考えています。

## ■市長海外出張について

### 記者A

パリ・ルクセンブルクからつくばに戻って来られて、調べてこられたり体験されたことを何かに還元したり、これから新しく始めることへの準備をしたり、あるいはアウトプットしたこと等、具体的なアクションに繋がっていることはありますか。

### 市長

昨日（7/10）もスタートアップ推進室のメンバーと、ルクセンブルクのスタートアップが出来ていることのうち、つくばですぐに実践できることは何か、長期的に必要なものと、そのための組織をどのようにしていく必要があるか等についてディスカッションをしました。具体的なパッケージについては、現在検討し始めており、新年度予算に入れていきたいと考えています。パリでは、OECD（経済協力開発機構）から、

SDGs やスマートシティ等の指標や、カーボンニュートラルの取組を共有いただきました。チャンピオンメイヤーのネットワークの中で、つくば市がどの分野に、より踏み込んで取り組んでいくかを議論しているところですので、今後具体的になっていくと思います。また、芸術財団の関係者と話をしたとお伝えしましたが、先方が現在、世界中で若手芸術家の奨学生を募集しています。その選りすぐりの方々が海外へ行く先として、ぜひつくばへお越しくださいと推してきました。世界の将来有望な若手達を招き、演奏会だけでなく、つくば市の音楽家達との交流等もしてもらえればと思っています。ルクセンブルクでは、経済大臣と話をしましたが、11月に同国へつくばのスタートアップ企業を送り、逆につくばのためにスタートアップ企業を送っていただく等、具体的な協業の話も始まっています。他にも挙げればきりがありませんが、具体的な動きがあり、そのうちの幾つかは来年度予算にも反映していくことになると思います。

#### **記者A**

さらに具体的にになった際にまた教えていただけたらと思います。

#### **■TX県内延伸について**

##### **記者C**

先日茨城県が、県内延伸を土浦方面で検討を進めていくことを正式決定しました。土浦市長が定例会見等で、駅を2つくらい造って欲しいと述べる等、土浦市の方が大分盛り上がっているように思えます。県や土浦市からつくば市側へ正式な申し入れや、共同研究の要望等、何らかの接触はありましたか。

##### **市長**

私自身へは、まだ特に依頼等は来ておりません。

##### **都市計画部**

県の方から問い合わせはありますが、まだ打ち合わせはしておりません。

##### **記者C**

つくば市としては、積極的に働きかけることはないが、県や土浦市から何らかの申し入れがあれば、それに答えることは、やぶさかではないというスタンスですね。

## 市長

情報収集のためにどういうことができるのか等、依頼があれば当然、協力しますので、ご相談いただければと思っています。

## 記者B

県が県内延伸を土浦方面に方向づけしたことについて、つくば市としてどう考えるか、どのように関われるのかについて確認させてください。

## 市長

先日出したコメントのとおりですが、土浦延伸について県は、採算性の確保が課題であるということをお話されていまして、県が素案を策定すると認識していますので、その進行を注視してまいります。

## 記者B

その素案の内容によっては、まちづくりに関わらないかもしれないし、関わるかもしれない。あるいは、新駅をつくば市内にも造って欲しいという提案をする可能性もあるということでしょうか。

## 市長

まだそのような段階では無いと思っています。採算性を確保することが大前提ですので、県がどのようなプランを作るかが非常に重要だと思います。それに対して情報提供等の依頼があれば、必要な協力はしたいと考えています。

## 記者B

現段階でつくば市から、何らかの要望を出されているのでしょうか。あるいは、要望をする予定がありますか。

## 市長

現段階では特に無いです。

## 記者D

6月23日に知事が発表した文章を読むと、第三者委員会がレポートを出した時に比



べて明確に異なってきたのが、沿線開発の重要性です。採算性を確保するために、沿線に住民を住まわせて、たくさん乗車してもらおうということともリンクしています。どういうルートを通るかについては、これからになりますが、つくば駅から土浦駅まで伸びることになれば、つくばと土浦の土地を通ることになります。沿線開発は、今の土浦寄りのつくば部分の姿形が大分違ってくるイメージを持っています。その辺の沿線開発に関して、こういった形が望ましいのか、逆に望ましくないことがありましたら、コメントをお願いします。

## 市長

先ほど回答したとおり、そのようなことも含めて素案を県が作ると聞いていますので、やはりその素案が大事だと思っています。今の段階で、具体的に申し上げることはありません。

## ■洞峰公園リニューアルについて

### 記者C

知事が、つくば市への移管は10月頃になるとおっしゃっているようですが、市としても、大体10月頃という認識でしょうか。

## 市長

今月末に説明会を実施します。現段階で判明している大規模な修繕は県が行う方向におおよそしてはなっていますので、ご意見を伺いながら、議会の皆さんともご相談して早ければ、ということだと思っています。知事もそのようにおっしゃっていると認識していますが、色々な手続きも含めてスムーズに進めば10月になるのだと思います。ただ、その前にはクリアすべきものが色々ありますので、今の時点でこのことではなく、これからの説明会で市民の皆さんのご意見をいただきながら、議員の皆さんに伺っていくことが先決だと考えています。

### 記者C

洞峰公園は市の中心部にあり、北部や南部の方々には馴染みが薄い気がします。貴重な自然が残っており、立派な体育館がありますが、市に移管された後、例えば小中学生の教育現場に活用したり、市民が参加できるようなイベントを積極的に実施する等の考えはありますか。

## 市長

はい、当然あります。税金を使う話ですから当然なのですが、議会でも施設の維持管理の話が多く出ています。洞峰公園の価値は、これまでの歴史的な経緯や生態系も含めたエリア全体の価値だと思っていますので、今回多くの方々が守って欲しいという声を上げられていました。市としても今後、移管が無償譲渡という形で実現すれば、当然子どもたちの学びの機会にもしたいと思っていますし、市民の皆さんにもその価値をきちんと伝えられるようにしたいです。そのためには、協議会を作ることが前提になると思っています。協議会で、どのような活用をしていくのか、これからの公園のあり方を含め議論をしていけると良いと考えています。

終了